

生活単元学習指導案

指導者 松下 友紀

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日（土） 第 2 校時（10：05～10：55）
- 2 学年・組 中学校第 2 学年 3 組 計 5 名（男子 1 名，女子 4 名）
- 3 場 所 中学校第 2 年 3 組教室
- 4 単 元 名 東雲交流発表会に向けて
- 5 単元について

本学級は，男子 1 名，女子 4 名が在籍する知的障害特別支援学級である。生徒は，それぞれ異なる小学校の特別支援学級から本校に進学してきた。同一学年，複数名での学習は未経験の生徒が多いため，友達との距離が近かったり，思ったことをそのまま言ってしまうたりしてトラブルになることが多くあった。1 年半，同じ学級で過ごす中で，一緒にレクリエーションを楽しんだり，教師の支援により話し合いを進め意見を決めるようになってきたが，きつい言葉を使ってしまうたり，自分の考えをなかなか言葉にできなかったりする場面も見られる。

他者とのやりとり以外については，何事にも意欲的に活動に取り組める生徒もいれば，苦手な活動，自分よりも幼い子がするものだと思った活動には意欲が下がる生徒もいる。指示理解の速さ，手指の巧緻性，集中力の持続，作業の速さなどについても実態は多様である。話をすることは苦手であるが，細かな作業が得意である生徒，その逆に細かな作業は苦手であるが，他者に話しかけることは得意な生徒がいる。また，丁寧さにこだわるあまり，作業スピードがゆっくりになってしまいう生徒もいる。それぞれ得意，不得意があるが，互いに他者を認め合い，得意なことを生かし，苦手なことは助け合える学級にしていきたいと考えている。

本単元は，東雲交流発表会での展示に向けてクラスで作品を制作する。この単元を通して，見る人を意識した作品づくりや他者と関わりながら一つのものを作り上げる楽しさを感じ取れるようにしたい。昨年度，本学級では，東雲交流発表会に向けて，学級全体で季節の壁画の制作（紅葉）に取り組んだ。教師が提案したものに従って，一人一人が落ち葉を作り，それを貼り合わせて作品に仕上げていく活動では，他者に話しかけたり，笑いかけたりする様子が見られた。今年度は，何をつくりたいのかを生徒が考えることからスタートする。全員で季節の制作を計画し活動する中で，必要なことを考え，みんなで準備する姿や，適切な言葉を使ったり，ペアの生徒の作業を意識したりして，他者と関わりながら活動する姿を期待する。

指導にあたっては，まず東雲交流発表会に来る人たちに季節感を感じてもらうためには，どのようなものが会場にあるとよいかを考えることで，作品づくりへの意欲を高めたい。自分が楽しむだけでなく，会場の人たちが楽しむことも意識して作品を制作できるようにしたい。パーツの試作品づくりを通して，自分が得意な作業，苦手だから手伝ってもらいたい作業などを把握できるようにする。どの生徒と協力するかをわかりやすくするために，2 人または 3 人での活動を設定する。手伝うときの声のかけ方，助けてもらう時の言葉のかけ方などを指導し，仲間と活動するときに活用できるように促す。

6 単元の目標

- （1） 仲間と作業するときの適切な言葉遣いや行動を知り，活動の中で使うことができる。
- （2） 学級の仲間と制作する作品を構想したり，必要な材料を考えたりすることができる。

自分でできそうなことと手伝いが必要なことを判断し，仲間を助けたり，仲間に助けを求めたり

することができる。

(3) 見る人を意識して、より良い作品を目指して、仲間と協力して活動することがしようとする。

7 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な生徒の姿
Ⅳ	自分にできること、自分には難しいことが分かり、適切な言葉を使って助けを求めることができる。自分ができることを生かして、積極的に仲間と関わるができる。
Ⅲ	活動がよりよく進むように、仲間に適切な言葉をかけたり、作業を手伝ったりして、作品づくりに取り組むことができる。
Ⅱ	自分が苦手なことに気づき、仲間に助けを求めることができる。
Ⅰ	難しい作業であるが、自分ひとりで解決しようとしている。 同じグループの仲間の作業を意識することは難しいが、自分の担当する作業はできている
手立て【関連する教師の資質能力】	
○話しかけるときの言葉や、手伝ってほしい時の言葉など、話型の例を指導する。 ○今年意識して頑張りたいことを考えるために、昨年度の東雲交流発表会の様子や作品を写真で振り返る。【授業構想力】 ○作品づくりのイメージをもてるように、写真や具体物を示す。 ○自分ができることと、手伝ってもらいたいことを考えるために、作品の手本と自分が作ったものを比較するように促す。【授業実践力】 ○適切な言葉づかいや行動を学級内で共有するために、できたことを具体的に評価する。 ○生徒の作業能力に合わせて見本を提示する。 ○生徒の得意なこと、苦手なことを見取り、グループ活動のメンバーを調整する。 【授業分析・評価力】	

※上記のものは、本単元のもので、当日の授業については別途資料で配付する。

8 指導計画（全10時間）

次	時数	学習内容
1	1	東雲交流発表会について知ろう（3組合同）
2	2～3	東雲交流発表会に向けてクラスで作るものを決めよう
3	4～5	試作してみよう
4	6～9	みんなで作品を仕上げよう（本時6/10）
5	10	東雲交流発表会を振り返ろう

9 本時の目標

○ グループの仲間を意識して、声をかけたり手伝ったりしながら作品づくりに取り組むことができる。

【知識・技能】

○ できることと苦手なことを考え、グループの仲間に助けを求めることができる。

【思考力・判断力・表現力】

生徒	実態	目標	目標達成のための支援	評価規準
A	・細かな作業が得意である。 ・周りをよく見ており、自ら気づいて学級の仕事をしている。 ・活動内容によって意欲に差が見られる。 ・イラッとすると荒っぽい言葉遣いになる。	適切な言葉遣いを意識して仲間に声をかけたり、「代わりにしようか？」と言添えて手伝ったりすることができる。	・自分から気づいて動いている場面、細かな作業を頑張っている場面を肯定的に評価する。 ・作品づくりの活動に入る前に、言葉遣いのことを確認し、意識できるようにする。	適切な言葉遣いや行動を意識して活動している。
B	・細かい作業が得意で、動画をみながら一人で折り紙ができる。 ・絵を描くことが好きである。 ・他の生徒を手伝うように指示を出すと、他の生徒の進捗状況を意識している様子が見られ、手伝うこともできる。	グループの仲間と声を掛け合いながら作業することができる。	・得意なことを肯定的に評価し、それをグループ活動で生かせるように言葉かけをする。	グループの仲間の進捗状況を意識し、声を掛けたり、助けたりして活動している。
C	・細かな作業は苦手な様子であるが、諦めることなく取り組むことができる。 ・仲間を励ます言葉かけができる。 ・困っていることには自覚があるが、自ら助けを求めることは難しい。 ・他者との適切な距離感、声の大きさを調整することが難しい。	グループの仲間に「手伝って」と助けを求めたり、「これお願い」と依頼したりすることができる。	・意欲的に取り組んでいる場面を肯定的に評価する。 ・活動の前に難しいと思った時はどうすればよいかを確認する。 ・ワークシートを用いて、難しそうなこと、できそうなことを確認するように促す。	難しいと思ったときに、適切に援助を求めている。
D	・丁寧な作業ができるが、作業スピードはゆっくりである。 ・教師には分からないこと、難しいことを伝えることができる。	・目標個数を決めて、時間内に作り終えることができる。 - ペアの仲間に「手伝って」と	・友達を助けることができる場面を肯定的に評価する。 ・ていねいだけでなくスピードも意識できるように今日の目標個	- 作業スピードを意識しながら活動に取り組んでいる。 - 難しいと思ったときに、適切に援助を求めている。

	・考えたらできるかもしれないという思いがあり、助けを求めるまでに時間がかかることがある。 ・仲間を応援したり、前向きな発言をしたりすることができる。	助けを求めたり、「これお願い」と依頼したりすることができる。	数を提示し、見通しをもてるようにする。 ・援助要請を出す前にペアの仲間から手伝ってもらった場合は、次困った時に自分から伝えられるように言葉かけする。	
E	・自分から積極的に話す場面は少ない。 ・作業スピードは早く、細かな作業も得意である。 ・指示理解には難しさが見られるが、周りを見て何をすればいいかが分かる。手順を間違えている生徒に知らせることができる。	グループの生徒が困っていたり、間違えていたりするとき、「ちょっといい？」と言添えて手伝うことができる。	・手順が違っていることに気づいて、仲間に知らせることができていることを肯定的に評価する。 ・作品づくりの活動に入る前に、話しかけるときに使うと良い一言を確認し、意識できるようにする。	自分が得意なことを生かして、他者に関わろうとしている。

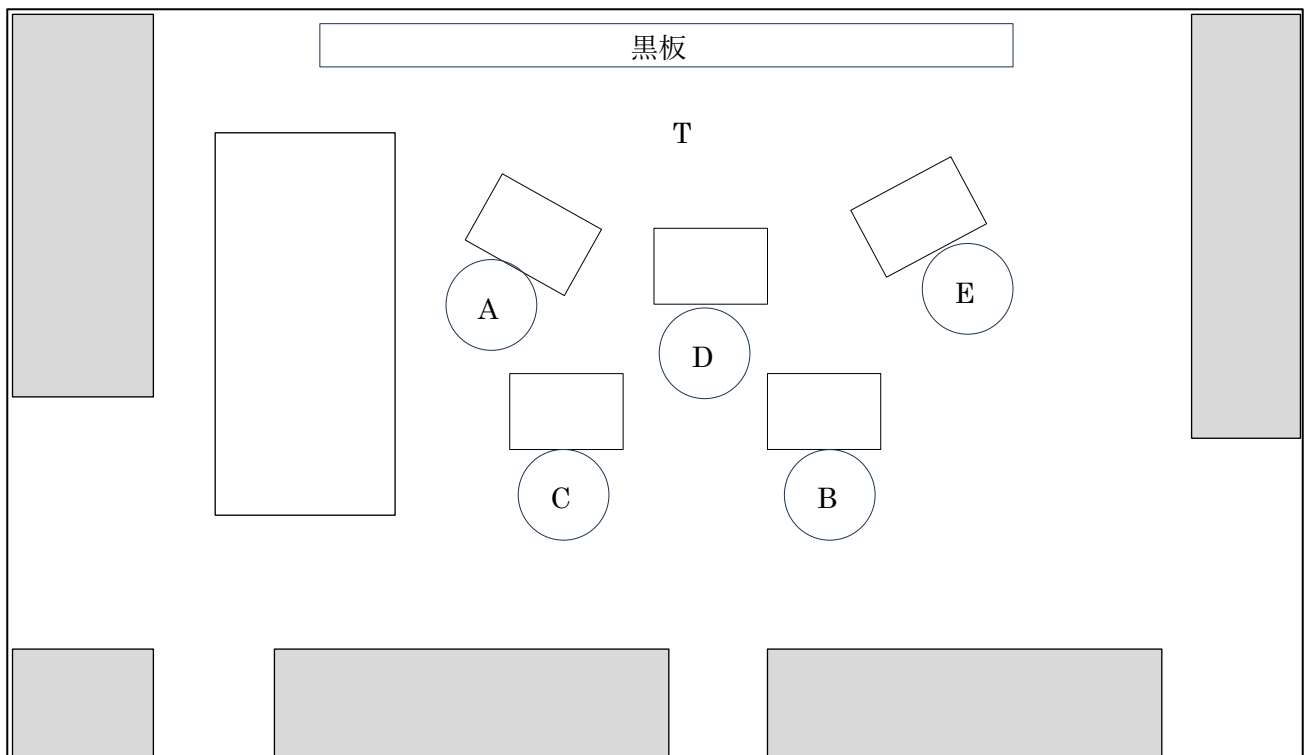
10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
導入（10分） 1. 前時までの学習を振り返る。 ・東雲交流発表会の日程と内容を確認する。 ・学級でつくる作品について確認する 2. 本時の目標と内容を確認する。	○ 前時までの学習成果物（ワークシート等）を提示する。
東雲交流発表会に向けて、協力して作品をつくろう	
展開（30分） 3. 本時のワークシートに記入する。 ・状況と対応させながら、使える表現を確認する。 4. 作品づくりの準備をする。 ・机の配置を変える。 ・必要な道具や材料を準備する。	○ 協力して作品づくりをするためのポイント（言葉遣いや、行動）を確認しながら、本時のワークシートを記入する。 ○ 既習のワークシート（作り方等）を見て必要なものを考えられるようにする。 ◆ 互いに言葉を掛け合って準備することができる。【知識・技能】

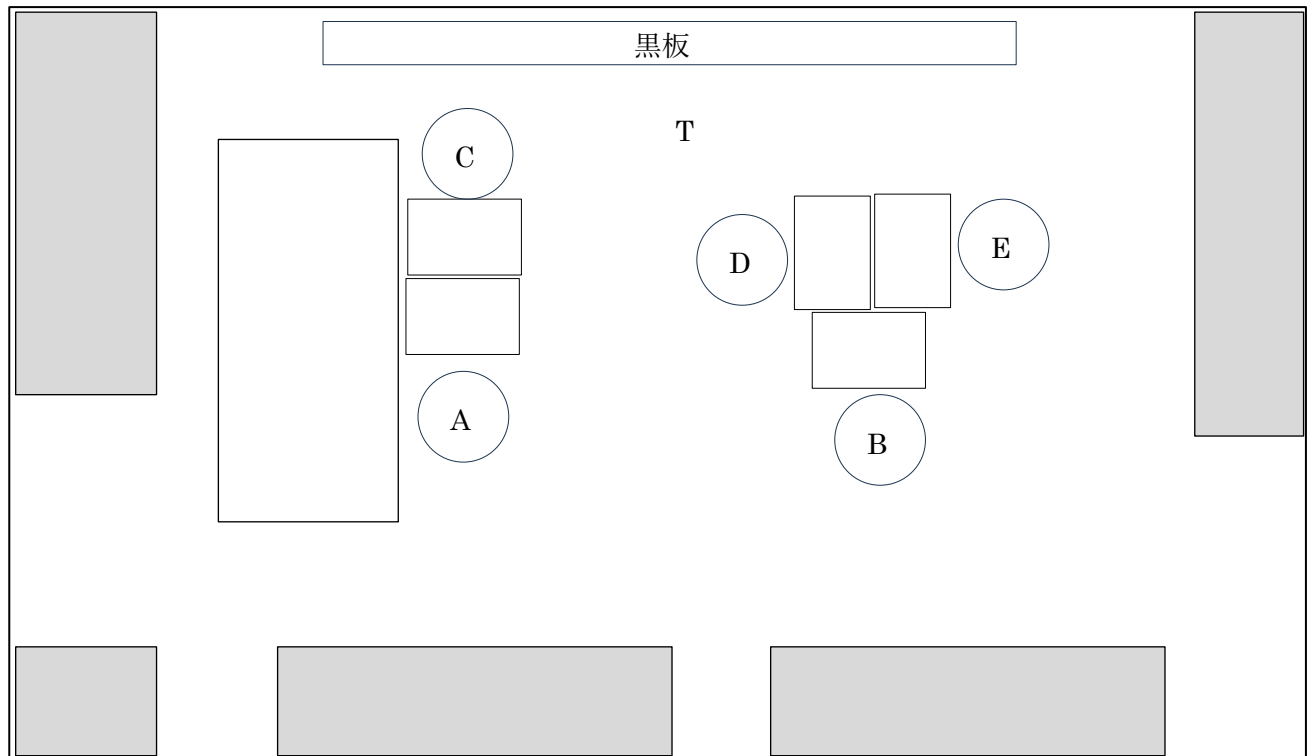
5. 作品をつくる。 グループ① (A, C) グループ② (B, D, E) 6. 片付ける。 机の配置を元に戻し、道具や材料を所定の場所に片づける。 まとめ (10 分) 1. ワークシートに振り返りを記入する。 2. 振り返りを発表する。	◆ 難しいと思ったときに仲間に助けを求めることができる。【思考力・判断力・表現力】 ◆ 言葉遣いを意識して、他者に声をかけたり、助けたりすることができる。【思考力・判断力・表現力】 ◆ 互いに言葉を掛け合って片付けすることができる。【知識・技能】 ○ 本時の学びを振り返り、言語化したり書いたりできるように十分な時間を確保する。
--	--

11 活動構成図

授業の始めと終わり



作品づくり



12 授業の分析

本単元では、東雲交流発表会に向けて、どんな作品をクラスで作るのかを話し合う、試作品をつくる、当日飾る作品をつくる、発表会後に取り組みを振り返る等の学習活動を設定した。本稿では、自分にできることと難しいことを判断し、得意なことはグループ活動で生かしたり、苦手なことは他者の助けを求めたりすることについて、生徒の学びがどのようなものであったのか分析する。

(1) 目標を達成するための手立て

①できること、難しいことを考えるための手立て

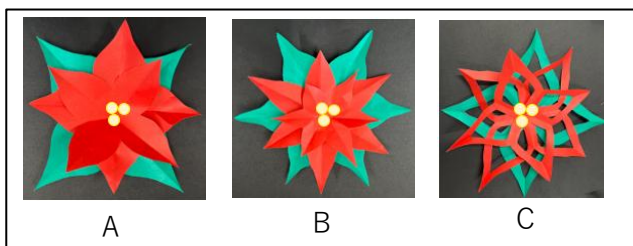


図1 花の見本



図2 ずらして折る工程



図3 縁を残して切る工程

【見本の提示】

作品で使用する花の試作品づくりでは、自分にできること、難しいことを考えられるように難易度の異なる3つの見本を提示した。(図1)、提示した見本は、花びらが4枚のもの(A)、花びらが6枚のもの(B)、花びらの縁だけ残すもの(C)の3種類である。Aでは花びらを4枚つくるために、折り紙の端をそろえて三角形に折っていくが、Bでは6枚の花びらをつくるために、折り紙をずらして折る必要がある。(図2) Cは花びらの縁だけを残すので、AやCよりも細やかに切る必要がある。(図3)

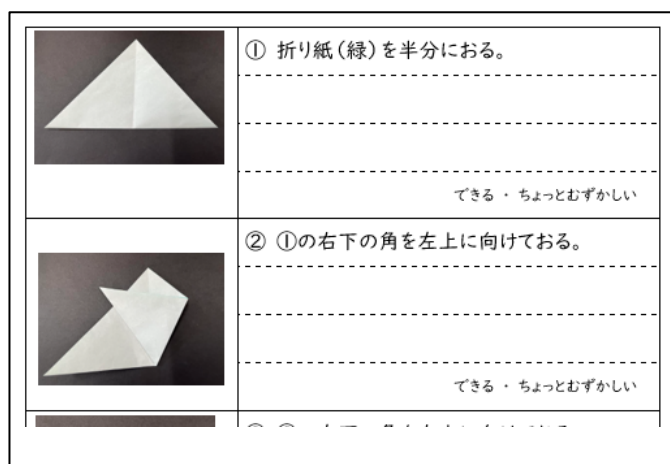


図4 作り方（抜粋）

【手順書の提示】

花の作り方を自分で確認しながら作れるように手順書を提示した。それぞれの工程で自分にできるかどうかを考え、「できる」、「ちょっとむずかしい」のどちらか一方を○で囲むように促した。（図4）

②お互いに助け合い、声を掛け合って活動するための手立て

この言葉を使おう！

こんな時	この言葉を使う	使った
話しかける		
ねが お願いする		
ねが お願いを受ける		
気づかう		
自分がする		
何かしてもらった		

今日の感想（がんばったこと、工夫したこと、うまくいかなかったこと）

【環境設定】

試作品づくりでは、生徒の学習机を合わせ、お互いの活動の様子が見えやすいようにした。作品づくり（本時）では、2名と3名のグループをつくり、それぞれのグループに細かい作業が得意な生徒を含まれるようにメンバーを調整した。

【場面に応じた表現や行動の指導】

試作品づくりでは、状況に応じて使うとよい言葉や、適切な行動を即時にフィードバックした。

作品づくりに入る前に、状況に応じた言葉を確認する活動を設定した。作った表は、活動後に振り返る時にチェックリストとして活用できるように、表の右端の列に○や△が記入できるようにした。（図5）

図5 本時のワークシート

(3) 生徒の学習の様子

試作品づくりでは、手順書で作り方を確認し、分からないことを教師に質問しながら花づくりに取り組んだ。工程ごとにできるのか難しいのかを考えて○で囲むことができていた。試作品づくりは2時間設定した。1時間目は教師に助けを求めているが、生徒同士で助け合うように促すと、2時間目では、隣に着席している生徒に助けを求めるようになった。場面に応じて「ここ手伝ってくれる？」や「ちょっといい?」、「私がするね。」等の表現を指導すると、すぐに使ってみようとする姿が見られた。

作品づくり(本時)では、最初に状況と言葉の確認をして、助け合うこと、言葉を掛け合うことを意識できるようにした。グループ①については、これまでの試作品づくりを通して生徒たちが作り方に慣れていたこともあり、言葉を掛け合う場面はほとんどなく、黙々と活動に取り組んでいた。本時のねらいとは異なるが、生徒Aは多く作ることを意識しており、紙を2枚重ねて折って切るなど工夫する姿が見られた。生徒Cについては、自分が作ったものと見本とを見比べて違うところに気づけるようになっており、見本に近づくように貼り方を調整しようとする姿が見られた。

グループ②の生徒は、言葉を掛け合っている姿が多く見られた。3つの見本を見て、生徒Dが作りたいものを先に決めると、生徒Eが「じゃあ私はこれを作る。」と言って別の見本を指さした。作る花を分担し協力しようとする様子が見られた。言葉を掛け合うことについては、生徒Dについては、作品づくりの前に作った言葉のチェックリストが効果的に働いていた。「こんな時にこの言葉を使う」を意識している様子が見られた。作り方を見て、しばらく考えて、作るのが難しいと判断した際には、生徒Eに「ここ手伝ってくれる?」と助けを求めることができた。その他にも「私がするね。」「どうぞ。」など、言葉で伝えることを意識しながら活動することができた。生徒Eについては、生徒Dの進捗状況を意識している様子が見られ、折り紙を準備して渡したり、「ちょっといい?」と言ってアドバイスをしたりすることができていた。細かい作業ができる生徒Eにとって得意なことが活動の中で生かされていた。

(4) 成果と課題

チェックリストを活用しながらの作品づくりは、11月19日、26日にも実施している。本項では、本時の学習の様子に19日、26日の学習の様子も加えて成果と課題を述べる。

活動中の生徒の様子、振り返りの様子(チェックリストの○の数、「今日の感想」に記入した内容)から、グループ②の生徒は、本時の目標を意識して活動できていたと判断できる。

生徒Dは、チェックリストの3項目に○を付けており、チェックリストの内容を踏まえて記述することができていた。(図6)また、授業の途中でもチェックリストを参照する様子が見られた。(図6)。この後、19日の授業では5項目、26日の授業では全部の項目に○がついた。生徒Dにとってチェックリストで確認することは有効な支援であったと言える。また、他の授業でも「こんな時は、、、」と考える様子が見られた。

生徒Eは、自分の思いや考えを言語化することが難しい生徒である。本時の感想では、花を折ったことのみ記述であった。しかし、チェックリストには4項目○がついており、目標を意識して学習を進めていたことが推察される。19日、26日の授業の感想についても取り組んだ事実の記述であったが、「どんな言葉を気を付けて使いましたか?」と尋ねると、チェックリストを見ながら感想を書き

足すことができた。学習の様子を言語化する上でも、チェックリストが手元にあることは有効であったと考える。

この言葉を使おう!		
こんな時	この言葉を使う	使った
話しかける	「ちょっといい?」	
お願いする	「ここ手伝ってくれる?」「教えてくれる?」	☐
お願いを受ける	「いいよ。」	
気づかう	「だいじょうぶ?」「困ってる?」	
自分がする	「ぼくが/わたしがするよ。」	☐
何かしてもらった	「ありがとう。」	☐

今日の感想 (がんばったこと、工夫したこと、うまくいかなかったこと)

自分から私から言えるようになった。何かしてもらった時はありがとうを言えました。

図 6 生徒 D の記述

この言葉を使おう!		
こんな時	この言葉を使う	使った
話しかける	「ちょっといい?」	☐
お願いする	「ここ手伝ってくれる?」「教えてくれる?」	
お願いを受ける	「いいよ。」	☐
気づかう	「だいじょうぶ?」「困ってる?」	
自分がする	「ぼくが/わたしがするよ。」	☒
何かしてもらった	「ありがとう。」	☐

今日の感想 (がんばったこと、工夫したこと、うまくいかなかったこと)

ホインセチアのおりがみをありがとうございました。

図 7 生徒 E の記述

グループ①の生徒については、生徒 C は生徒 A のことを気にする様子が見られ、声をかけてシールを受け取る場面もあったが、生徒 A から言葉を掛けることはなかった。2 名とも、チェックリストの○の数が少なく、感想についても生徒 A は黙々と作業したこと、生徒 C は丁寧に作ったことを書いていた。そのため、本時については目標が達成できなかったと判断する。

生徒 A は普段と異なる環境では学習意欲が低下する。本時は土曜日登校の公開授業であった。そのため、普段と異なる状況が学習に影響し、グループのメンバーと話すことができなかったと考えられる。活動の前に、目標個数を決める活動を設定した。生徒 A、生徒 C、生徒 D は本時で達成できそうな個数である 2 個にすると決めたが、生徒 A は 50 個と発言した。多く花を作り、早く作品を完成させることに意識が向いており、本時の目標として示した「言葉を掛け合って協力して取り組む」についても正確に伝わっていなかったと推察する。どの生徒にも目標が確実に理解できるように、授業の導入や活動中の言葉かけなどを工夫したい。

生徒 C は、試作品づくりを通して、最初はできなかった作業ができるようになっていた。難しいところはあるが、自分で頑張っていてできそうな課題であると捉えており、生徒 A のことは意識はしていたものの、話しかける必然性が低かったと推測する。

生徒 A、生徒 C については、19 日、26 日の授業でチェックリストの○の数が増えた。グループ②ほど活発ではないものの、言葉を掛け合いながら活動ができていた。今後は、グループのメンバーや協力して取り組む課題を工夫することで生徒 A、生徒 C が他の生徒と言葉を掛け合う状況になるとも考えられる。グループ活動のメンバーや活動内容については今後の課題としたい。

この言葉を使おう!		
こんな時	この言葉を使う	使った
話しかける	「ちょっといい?」	☐
お願いする	「ここ手伝ってくれる?」「教えてくれる?」	☐
お願いを受ける	「いいよ。」	☐
気づかう	「だいじょうぶ?」「困ってる?」	☐
自分がする	「ぼくが/わたしがするよ。」	☐
何かしてもらった	「ありがとう。」	☐

今日の感想 (がんばったこと、工夫したこと、うまくいかなかったこと)

今日は、もくもく集中ができてよかった。あと、ねずにかんばれてよかった。

図 8 生徒 A の記述

この言葉を使おう!		
こんな時	この言葉を使う	使った
話しかける	「ちょっといい?」	
お願いする	「ここ手伝ってくれる?」「教えてくれる?」	
お願いを受ける	「いいよ。」	
気づかう	「だいじょうぶ?」「困ってる?」	
自分がする	「ぼくが/わたしがするよ。」	☒
何かしてもらった	「ありがとう。」	☐

今日の感想 (がんばったこと、工夫したこと、うまくいかなかったこと)

がんばったことは、ホインセチアのしみに、こいねいに、はさみを、使って、しゅちゅうして、作りました。

図 9 生徒 E の記述

本時のねらいとは異なるが，作品づくりの場面で，生徒 A は，手順書には載っていない折り方・切り方を考え，できるだけ多く作ろうと工夫していた。生徒 C は，見本と同じものを作ることを意識しながら丁寧な作業ができていた。この二人の姿はこれまでの学習では見られなかったものであるため，肯定的に評価したい。